

月刊 まち・コミ

2011年9月号

● インフォメーション ● <http://park15.wakwak.com/~m-comi/>
黒大豆の枝豆を10月下旬に収穫します。ご購入による応援をお願いします。詳しくはチラシにて。



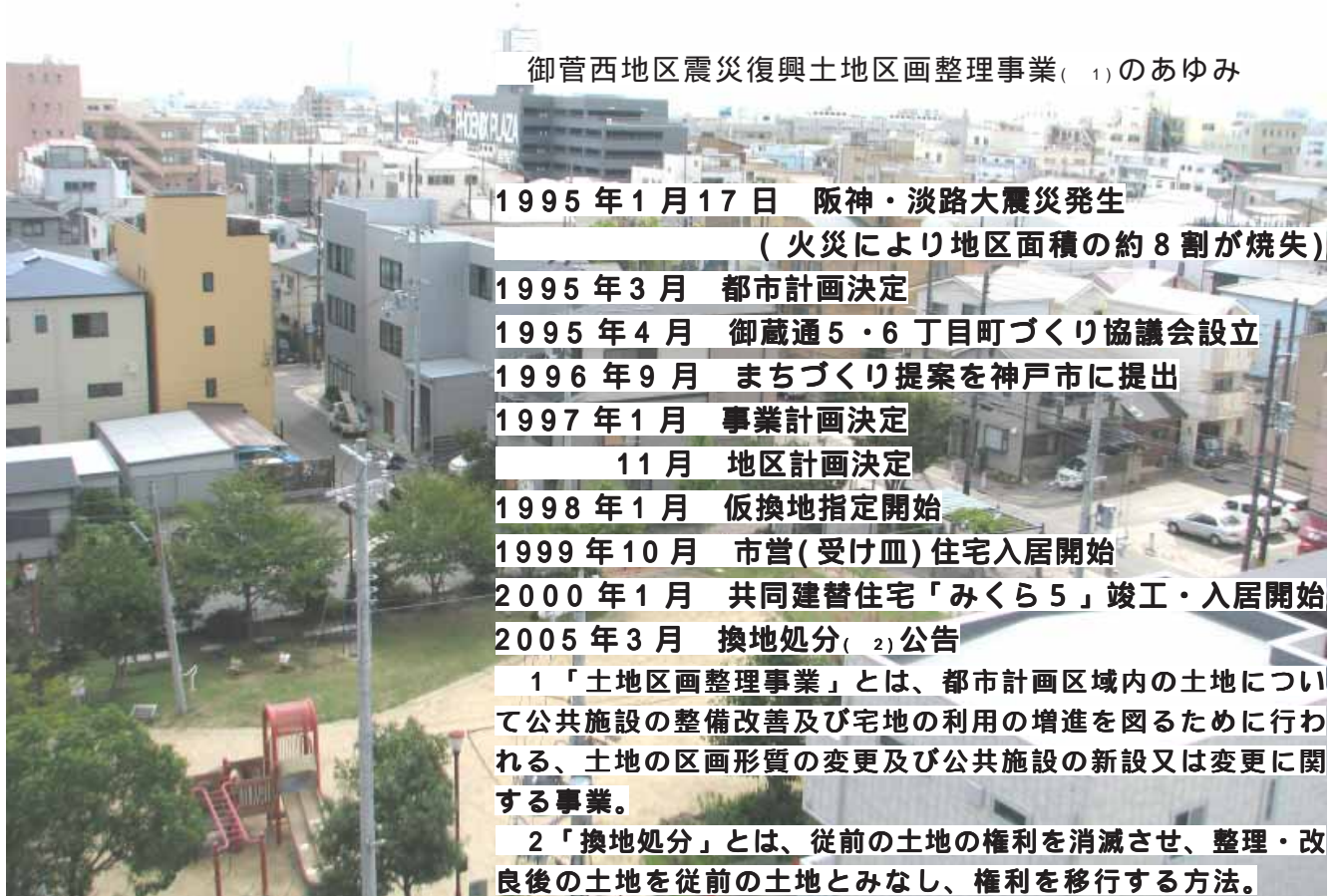
今月の注目記事 ● P1 ~ P3 御菅西地区再建状況 ~阪神・淡路大震災から17年~

御菅西地区再建状況

~阪神・淡路大震災から17年~

震災復興土地区画整理事業が行われた、御蔵通5・6丁目（御菅西地区）。震災から16年経った今も、まち・コミュニケーションでは再建状況を追いつけています。

今回は、今年8月30日の調査結果を、昨年との調査と比較してご報告いたします。



御菅西地区震災復興土地区画整理事業(1)のあゆみ

- 1995年1月17日 阪神・淡路大震災発生
(火災により地区面積の約8割が焼失)
- 1995年3月 都市計画決定
- 1995年4月 御蔵通5・6丁目町づくり協議会設立
- 1996年9月 まちづくり提案を神戸市に提出
- 1997年1月 事業計画決定
- 11月 地区計画決定
- 1998年1月 仮換地指定開始
- 1999年10月 市営(受け皿)住宅入居開始
- 2000年1月 共同建替住宅「みくら5」竣工・入居開始
- 2005年3月 換地処分(2)公告

1 「土地区画整理事業」とは、都市計画区域内の土地について公共施設の整備改善及び宅地の利用の増進を図るために行われる、土地の区画形質の変更及び公共施設の新設又は変更に関する事業。

2 「換地処分」とは、従前の土地の権利を消滅させ、整理・改良後の土地を従前の土地とみなし、権利を移行する方法。



2010年9月2日の調査



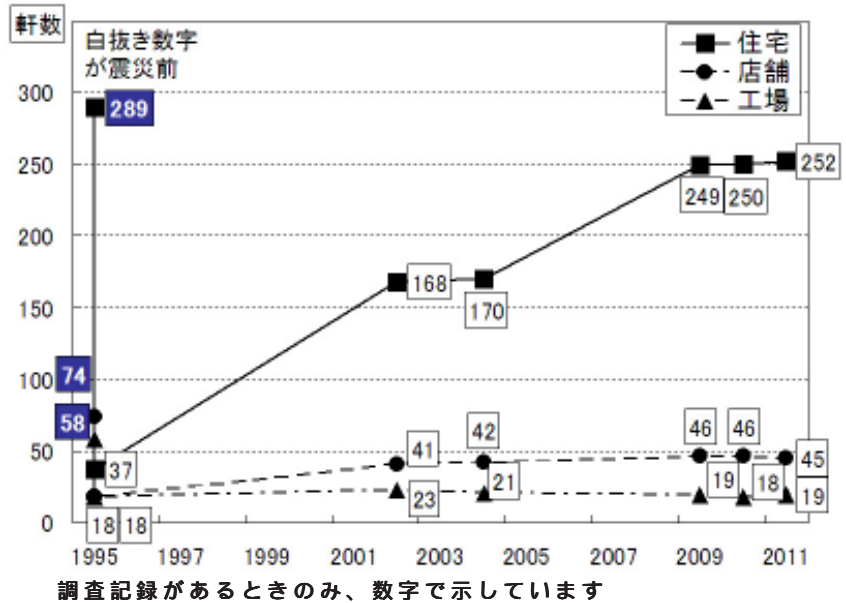
2011年8月30日の調査



前回(2010年9月)調査からの変化

	増		減	計
	新築	空き物件 入居		
住宅	1	2	1	2
店舗	1	1	3	1
工場		1		1

建物用途別 軒数の変化



事例紹介

- ・新築倉庫が建った！
以前は仮設の小屋の板金屋（建築業）が建っていたが撤去され、土地が売りに出されていた。その土地を木材会社が買い、材木を置くための倉庫を建て利用している。大通りに面し、間口が狭く長細い形状の土地を上手に使われている。
- ・新築住宅建設中！
3世代が暮らす家。長田区北部にお住まいで、子どもが生まれ手狭になったため新しい家を建てることになった。探し始めた当初は、新築にこだわらず、場所も長田区に限らず灘区や中央区など、神戸

市内の広範囲を考えていたが、奥様の両親が暮らす御蔵通に売り地があったことが記憶にあり検討。奥様が子どもの頃から慣れ親しんでいる地域で、買い物やお出かけに便利なので決めたそう。結果的に、元住民だった奥様が地域に戻ってきたことになった。

・新築分譲に入居！

2009年7月の調査時から、分譲中だった住宅に、入居者あり。

・中古物件に入居！

2010年9月に中古住宅入居者募集のチラシが入っていたが、現在入居を確認。また事業所向け空き物件にも、1軒入居されていた。

・空工場が通所介護施設に用途変換！

町工場跡がしばらく貸し物件として利用者募集されていたが、現在は通所介護事業の施設となっている。工場という、広い空間を持ち、ある程度自由に空間作りをできる建物であった。

・空き地に緑が増えた！

運送業が去った後、空き地であったが、「県民まちなみ緑化事業（県民緑税財源）」を用い、2011年3月に、芝生整備を行った駐車場（グラスパーキング）があった。

・残念ながら閉店・・・

3軒が閉店。うち2軒は入居者募集中。

今回の調査での考察

まちの柔軟性

工場を用途変更して、別の利用者が入った事例があった。資金が新築するほどかからず用途変更でき、まちの要素を替えられるのは、まちに柔軟性があると言えるだろう。時代のニーズに合わせてまちが変化できるのも魅力だ。

今回の事例のように工場や、ワンフロアの面積が広い商店などが有効なので、当地区のように住商工混在地域に用途変更可能性があると思われる。

ちなみに、御菅西地区において、震災で被害を受け区内再建を果たした店舗は57軒中18軒（31.6%）、工場は44軒中12軒（27.3%）である。

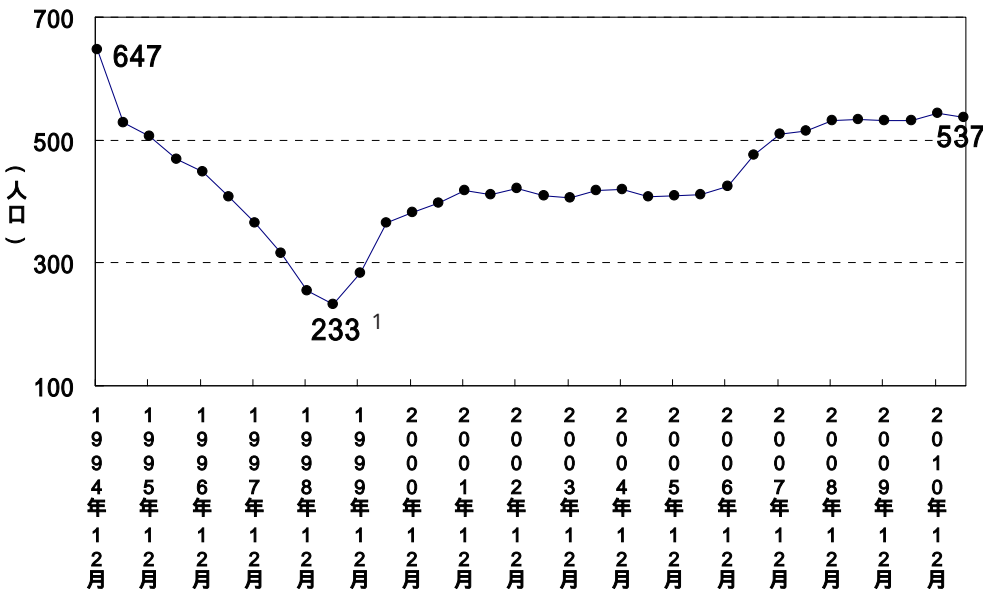
過去16年間の調査結果について

インターネットでご覧いただけます。

「御蔵地区の阪神・淡路大震災からの復興の状況（月刊まち・コミの記録）」

<http://machicomi.blog42.fc2.com/blog-entry-594.html>

御蔵通5・6丁目の人口動向（神戸市企画調整局総合計画課発表）



2008年12月から、人口は横ばいです。

1 1999年10月から、市営（受け皿）住宅の竣工・入居が開始された。

平成23年前期 震災体験学習に来た中学生からのお手紙(2)

前号に続き、語り部へのお礼の手紙を掲載します。

【炊き出しは大変でした】

今回の震災学習で、震災の貴重なお話しや炊き出しなどを体験させていただきありがとうございました。

震災直後は、家をなくし避難所で生活する人や、仮設住宅での生活など、辛いこともたくさんあったようですが、それを乗り越えてきた神戸の方々はとても強い人だなあと感じました。

炊き出し体験では、機材を運んだり、まき割りをさせてもらいました。まき割りなんて簡単だろうと思っていたけど、おのをまきに当てることさえも難しく、当たってもうまく割れなかったり、ただ削れるだけだったり、炊き出しがいかに大変なことなのかを知りました。

僕が住んでいるこの東海地方にも、いつ大きな地震が来てもおかしくないと言われていますが、今回の震災学習で学んだことを生かして、いつ地震が来ても大丈夫なように備えたり、また、地震が起きてしまったとしてもうまく対処できるように日頃から意識していきたいです。(愛知県 中学3年生 下方くん)

【学んだことを家族と共有】

今回の学習で印象に残っていることは、スライドで見た被災当時の町の写真です。地震の爪跡が生々しく写っていて、とても大きな地震であったことが分かりました。また、建物などに埋まってしまった人たちは、7割が近所の人に助けてもらったということを知り、とても驚きました。近所の人たちとの交流は大切だと思いました。また、炊き出し体験ではまきを割るという貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。みんなで作ったカレーはとてもおいしかったです。まち歩きで見た傾いた電柱には衝撃を受けました。阪神・淡路大震災が本当に大きく、恐ろしいものであったことを感じました。

僕は震災学習で学んだことを、家族に話しました。学んだことをいろいろな人や後世に語り継いでいくことが今後の防災につながると思います。(愛知県 中学3年生 恒川くん)

【被災者の苦しみや心の傷は

阪神・淡路も東北も同じ】

私は、震災学習をする前は、阪神 淡路大震災のことをよく知らなくて、東北の大震災とどう違うんだらうと思っていました。それで実際に学んでみて、東北の地震と違う所や同じ所を知りました。同じ所は結構あって、その中でも一番同じといえるのは被災者の方たちが、みんな苦しみ、心の傷を負ったということだと思いました。地震は、自然の現象だからしょうがないことだけど、自分たちにはできることは地震が起こったときに備えているような準備をしておくことだと思いました。そして、当時の震災の様子を残すために、公園に傾いた電柱と亡くなった方の場所が分かる鎮魂のモニュメントがありました。それを見るだけで、震災当時の様子が思い浮かびました。今回の震災で精神的にも、身体的にも傷ついた方がたくさんいると思います。そんな方たちのために、今私たちができることは何かを考えて、これからの生活に生かしていこうと思いました。(愛知県 中学3年生 小川さん)



炊き出しの様子。ご飯を炊くためのまき割りに挑戦。

まち・コミ news



東日本大震災支援活動報告 海蔵寺その後 ほか

津波による被害を受けた宮城県亶理郡亶理町にある海蔵寺の瓦礫撤去作業を、まち・コミの呼びかけで集まったボランティアメンバーで4月と5月実施。墓地は瓦礫撤去はしたものの、上部の棹石が流され、台石のみが残っている状態が殆どでした。その後、6月に檀家(だんか)さんらによって、墓地の墓石を戻す作業が行われました。

声

被災者から
津波が押し寄せた墓
地にお参りに来た亶理
町、菊地芳(よし)さん(92)「墓は津波で流
されてぐちゃぐちゃに
なっちゃった。また墓
石を並べてもらった。
兄や親類が眠っている
墓にお参りでできてうれ
しいわ。地震の時は自
宅に1人でいた。揺れ
はいつまでもやまず、
防災行政無線は、耳が
悪いから何を言ってい
るのか聞こえなかつた。
まさか自宅まで津
波が来るとは思わなかつたよ。イチゴ畑から

宮城

流された墓戻った



親族と墓参りにきていた菊地芳さん(中央)＝宮城県亶理町で

息子夫婦が戻ってき
て、3人で車で避難し
ようと家を出たんだけ
ど、道路のあちこちか
ら津波が来て家に戻っ
たんだ。津波はすごい
速さでアロック塀をな
ぎ倒して恐ろしかった
よ」
【「垂水友里香」

海蔵寺にお墓参りに来られた檀家さん。取材に対し「墓にお参りできてうれしい」。(毎日新聞2011年9月30日)。

また9月9日には、南三陸町の避難所でリーダー役を務められた、内田卓磨さん、内田智貴さん、内海明美さんが、まち・コミにお越し下さいました。まち・コミで語り部をしている方々とともに迎えし、南三陸の状況をお聞きしたり、交流させていただきました。

まち・コミの「東日本大震災復興支援活動について」をまとめたページを作りました。
<http://park15.wakwak.com/~m-comi/project/33/>

大地のつぶやき

東日本大震災を想う(Ⅳ)

八月上旬、九月上旬と亶理の仮設住宅を訪ねた。玄関がない、洗濯物を干せない、軒端を広げて下駄箱を置きたい等々話を聞いた。規格大量生産の仮設は神戸の時と殆ど変わっていない。十六年経て策がなさすぎる。仮設住宅は本来自分の土地に建てさせるべきだ。標高が3m以上あるなら取りあえずいいではないか。そして地元の大工で、地元の木材を使い当面最小限の家でいい。戦後焼け残った木材でトタン屋根を葺き小さなバラック小屋が建ち、三年五年を経て子どもの成長とともに増築し、十年、十五年を経て建て直した。戦後との比較は良くないかもしれないが、今の統一規格品の仮設では人間の尊厳を謳う住まいから程遠い。それより被災者個々の創造性を養い、夢と希望をいくらかでも満たし、あるいは生きる活力を生む自分の土地に再生を試みることは許されるのではないか。我々のまち御蔵は百五十 km離れた日本海側から、元北前船乗組員の古民家をまちのボランティア、学生ボランティアが力を合わせ、大工棟梁、左官親方の指導の下自治会館として移築再生させた。丹波の山へ行つて椎もし、泉州に竹取りに行き、小舞竹を編み、土壁も練り直し、塗った。金の有難味どころか人の有難味を痛切に味わった。

戦後の日本は工業化に大きく針を振りすぎた様に思えてならない。今ここその地方の特色である農林水産業の健全な復活を図るべきだろう。そのために地元の材木を使つての仮設が多く出来れば山林にも手が入る。「山は海の恋人」「森林が海の魚介や海藻を養つ」とも言う。農林水産業の循環は家族を巻き込んだ作業だ。今若いボランティアも沢山入っている。山あり、川あり、海あり、平野あり。彼らもこの自然の中で汗をかき感動に浸つてほしい。海辺の魚市場や水産加工場、製氷工場、冷凍、冷蔵施設、造船工場が軒を連ね、それらが或る意味シエルトー役を果たせばいいのではないか。しなやかに生き抜きたいものだ。

株式会社兵庫商会 田中保三

まち・コミ活動報告

7/10 ~ 8/31

- 7/13 長田区いきいき部会出席
- 7/15 日本建築家協会支部長会議
メンバー来訪
- 7/16・17【出石市民農園】黒豆作業
- 7/22 ~ 25【東北震災支援】被災地
視察ツアー参加(戸田)
- 7/23【出石市民農園】黒豆作業
- 7/28【震災体験学習】JTB首都
圏営業担当者
- 7/30・31【出石市民農園】作業
- 8/4 まち・コミ打合せ
- 8/5 ~ 7【東北震災支援】亙理町・
南三陸町へ
- 8/8【東北震災支援】仙台市若林
区荒浜へ
- 8/10【震災体験学習】下見打合せ
- 8/1 長田区役所いきいき部会講
座打合せ
- 8/12 まち・コミ打合せ
- 8/13・14【出石市民農園】作業
- 8/17【日台交流】麒麟の会(第4
回)
- 8/23【研修受入】千葉商科大学
毒島ゼミ
- 8/25 長田区いきいき部会講座打
合せ
- 8/29【日台交流】麒麟の会(第5
回)
- 8/30【震災体験学習】打合せ
- 8/31【出石市民農園】作業

ご支援、ありがとうございます。

6/11 ~ 8/31

賛助会員(新規・継続)

末正盛隆(兵庫県) 六ノ坪合資会社(兵庫県) 樽本憲昭(兵庫県) 西條遊児(兵庫県) 山田美砂緒(東京都)
 有馬嗣朗(山口県) 小林恵美子(京都府) 吉川俊雄(山口県) 桂光子(兵庫県) 保田茂(兵庫県) 木村徹(広
 島県) 鮫島和夫(長崎県) 川崎茂(大阪府) 連合愛知(愛知県) 森勢郁生(東京都) 橋本敏子(千葉県)
 原田元基(兵庫県) 日本精機株式会社(大阪府) 佐藤寿一(埼玉県) 小林郁雄(兵庫県) 吉田昌(大阪府)
 津田四郎(兵庫県) 山内洋(東京都) アートサポートセンター神戸(兵庫県) 安井悦子(カナダ) 濱岡歳生
 (山口県) 北後明彦(兵庫県) 根本暁生(宮城県) 浦野正樹(東京都)

寄付 桂光子(兵庫県) 土井淑子(兵庫県) 山口一史(兵庫県)

協力 社団法人シャンティ国際ボランティア会(東京都) 株式会社兵庫商会(兵庫県) 【順不同・敬称略】

新規賛助会員募集&更新のお願い

まち・コミでは、さらに活発に活動を行うため、賛助会員を募集し、金銭面でのご支援をいただいております。会費は、事業推進のために活用させていただきます。賛助会員のみなさまには、会員特典をご用意しておりますので、ぜひ賛助会員への登録をお願いいたします。

また、賛助会員は1年更新とさせていただきます。現在賛助会員の方も時期がきましたら、更新をお願いいたします。(期限は、「月刊まち・コミ」郵送時の封筒の、宛名の下に記載していますので、ご確認ください。)

会員特典

本誌「月刊まち・コミ」の送付。

まち・コミュニケーションに関する、Eメールでの情報送付、WEBの特別ページの参照

よろしくおねがいいたします。

編集後記 宮定が神戸新聞の連載「新兵庫人 輝く」の取材を受けました。東日本被災地支援への思いを語っています。http://bit.ly/p0xYVU(戸)

年会費

個人・法人 年間5000円
 学生 年間3000円

郵便振替口座番号

00950-3-42788

口座名称

「まち・コミュニケーション事務局」

<p>2011年9月1日発行 編集/発行 まち・コミュニケーション 定価 100円</p> <p>御蔵事務所 〒653-0014 神戸市長田区御蔵通5-5 TEL 078-578-1100 / FAX 078-576-7961</p> <p>東京事務所 〒162-0052 東京都新宿区戸山1-24-1 早稲田大学文学部浦野研究室内</p> <p>神奈川事務所 〒214-8580 神奈川県川崎市多摩区東三田2丁目1-1 専修大学人間科学部部大矢根研究室内</p> <p>e-mail m-comi@bj.wakwak.com URL http://park15.wakwak.com/~m-comi/</p>
